

初段

硬筆検定試験問題（60分）（第100回 令和2・7）

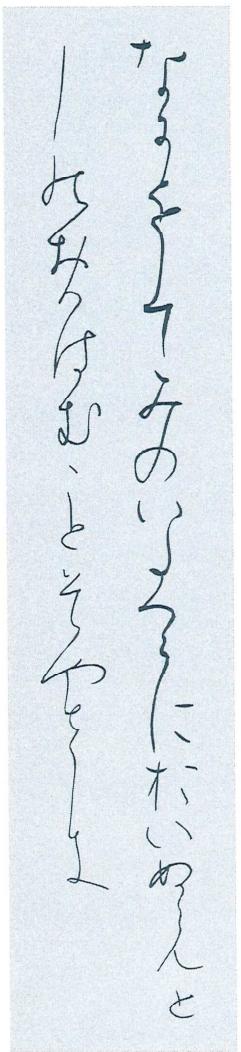
※各問の出典の記入は自由とする。

問一 次の文字を、楷書・行書の二体で書きなさい。

春 物 自 清 美



問二 次の曹全碑を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。



問三 次の高野切第三種を、解答欄の大きさにあわせて調和よく臨書しなさい。

(なにをしてみのいたづらにおいぬらんど／しのおもはむことぞやさしき)

問四 次の文章を、漢字は行書、または草書で、調和よく書きなさい。

彼等は、言われた通りに振り返つて、先ほどの林間の草地を眺めた。たちまち、一匹の虎が草の茂みから道の上に躍り出たのを彼等は見た。虎は、既に白く光を失つた月を仰いで、二声三声咆哮したかと思うと、また、元の叢に躍り入つて、再びその姿を見なかつた。

(中島敦「山月記」より)

問五

次の□内の掲示文を問五解答用紙に、位置・文字の大小を考え、フ・エルト・ペンか、筆ペンで書きなさい。(縦・横自由、数字は算用数字・漢数字どちらでもよい)

- 期日 令和二年七月十八日(土)
- 会場 都城市総合文化ホール
- 第八回 高校生芸術文化交流会
- 主催 宮崎県高等学校文化連盟
- 後援 每朝新聞西部本社